

平成二十一年度予算決定

昨年十九年の当初予算が、五千七百九十四億（こんなに苦しいのか）であった。平成二十一年度は、五千六百七十二億（ご無理したのは解る予算だがこれで何が出来るの？）と、なった。正直厳しい。昨年国からの交付税が、国及び地方の税収が鈍化する中、微増したのにも関わらず県税収入が減少する見込まれることから、平成二十一年度は百二十二億の減少、2.1%の削減という予算が編成され議決された。

農林水産常任委員会を振り返って

山形県の基幹産業と位置づけられている農業に對しても東北で最も低い予算処置。このような状況下で発覚した、中国の餃子農産物混入問題。この混入原因について結論は出ていないが、日本の企業が食品の低価格販売を優先したことが生んだ結果と考える。「安い」も大事だが、食で最も重要な安全がうやむやになってはならないのではないだろうか。



農林水産常任委員会視察（温海力ブ栽培状況）

また、昨年日本で発覚した食品の偽装・偽造問題も、輸入品との価格競争から発生したとも言える。中国の餃子農産物混入問題以来、日本への農産物輸入量が4割減となった。

現在、日本の食糧自給率がカロリーベースで4割を切り39%と戦後最も低くなっている。国土日本の農業など自給率向上対策として、早急に施策を講じておかないと、本当にとんでもない事態を招くと懸念している。グローバル競争が一層激化する中日本の食に対する考えや施策をもう一度徹底的に検証する必要がある。

西村山高校再編検討委員会設置

教育委員会では、県立高校の将来のあり方を検討すべく、「県立高等学校将来検討委員会」を設置し、平成十六年三月に報告書の提出を受けた。これを踏まえて高校教育改革に関する具体的な取り組み内容を示した「県立高校改革実施計画」を策定した。その再編計画に準じて進められてきたが、平成二十一年度は西村山地区再編整備計画について検討会が設置される年となる。その検討結果を基に、平成二十六年三月まで再編を終了する予定だ。

すでに、谷地高校商業科が平成十八年度に、寒河江高校普通科が平成二十一年度に一学級減となっている。もう、西村山も高校再編に向けて動き出しているのだ。その要因は、何ものでもなく少子化である。下表に示した中学校卒業生数は、平成十六年・平成二十六年までの十一年間で三千七十五人減少すると推計されている。このことから、県では平成十六年度二百四十八あった学級を百九十三学級程度と、五十五学級減の構想を打ち出しているのだ。

私の高校再編についての考えは、西村山地区だけを見据えて検討するのではなく、将来、県全体の高校教育がどうあるべきかという構想のうえにたつて、広い視点で検討していただきたいと考えている。

ふるさと、やまがた「元氣対策」

平成二十年度ふるさと、やまがた「元氣対策」として七十億円が計上されることとなった。主な内容は、社会資本長寿命化対策として橋梁の長寿命化、その他の安全確保のための施設等の補修・改善対策としての、信号灯器のLED化による省電力化、県立学校等の耐震化対策などがあげられる。



例えば橋の長寿命化であるが、古くなった橋を架け替えるとなると莫大な事業費が必要となる。通常橋梁の寿命は施工後六〇年と言われており、橋梁の防水シート施工などを行うと、三〇年は寿命が延ばせることになる。新たなものを作ってお金を掛けるのではなく、今あるものを元気にするための対策である。わたしは、やまがた元氣対策により、県民も元気になるような施策の充実に努めていかなければならないと考える。

【西村山郡市町ごと県全体の中学生卒業生数推計表】

(\*「卒業生数」は各年3月の中学校卒業生数)

Table with 13 columns (Year 16 to 26) and 13 rows (Municipalities: 寒河江市, 河北町, 西川町, 朝日町, 大江町, Total, Ratio, Prefecture Total, Ratio). The table shows a general downward trend in the number of graduates over the period.